

昭和4年ツェッペリン飛行船の日本訪問

伊藤 裕介 (P-152502・千葉)

昭和100年を航空郵趣的に振り返ると、昭和4年に「ツェッペリン飛行船」が世界一周飛行の途中に日本を訪問したことは大きな出来事の一つです。ドイツのツェッペリン伯爵は1900年に長年の夢がかない、硬式構造の飛行船LZ-1の飛行に成功し、その後も新しい飛行船を建造しました。第一次世界大戦で敗戦国となり、建造を禁止されましたが戦後に再開、日本を訪問した世界で最も有名な飛行船「グラフ・ツェッペリン号」を建造しました。

昭和4年ツェッペリン飛行船の日本訪問

ドイツから日本へ向けて

グラフ・ツェッペリン号は、8月15日午前4時35分にフリードリヒスハーフェンを離陸し、ライプツヒ、ポツダムを経由し、10時40分にはベルリン上空を通過した。その後ロシア領空内を飛行し、16日午後にはウラル山脈を超え、17日にはシベリアに入り、19日朝に北海道に到着した。

フライトカバー (フリードリヒスハーフェン → 茨城県霞ヶ浦)
引受印: フリードリヒスハーフェン(1929-8-15)、着印: 大阪 (1929-8-20)、搭載印



フライトカバー (フリードリヒスハーフェン → 茨城県霞ヶ浦)
引受印: フリードリヒスハーフェン(1929-8-15)、着印(裏面): 東京 (1929-8-19)、搭載印



昭和4年ツェッペリン飛行船の日本訪問

霞ヶ浦に到着

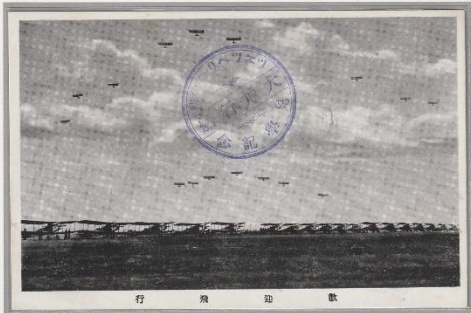
日本に到着したグラフ・ツェッペリン号は19日午後6時18分霞ヶ浦上空、同27分着陸、7時7分に格納完了した。
霞ヶ浦到着を歓迎して、上空では歓迎飛行が行なわれた。

一到着の記念色変わり日付印
(昭和4年8月19日 茨城・阿見局)

格納庫のグラフ・ツェッペリン号(テレカ)



霞ヶ浦上空での歓迎飛行 (絵葉書・日本製)



昭和4年ツェッペリン飛行船の日本訪問

米国めざして日本出発

日本国中あてての歓迎のあと、グラフ・ツェッペリン号はいよいよ米国向けの第3コースの出発となった。8月22日、出発のため格納庫から引き出す際にゴンドラの支柱を破損、応急修理の行い、一日遅れの23日午後3時13分に霞ヶ浦を飛び立った。

フライトカバー (茨城県霞ヶ浦 → ロサンゼルス)
引受印: 東京 (1929-8-21)、着印: ロサンゼルス (1929-8-26)、搭載印

出発の記念色変わり日付印
(昭和4年8月23日 茨城・阿見局)



フライトカバー (茨城県霞ヶ浦 → フリードリヒスハーフェン)
引受印: 東京 (1929-8-21)、着印: ライプツヒ (1929-8-5)、搭載印